令和２年度　第２号

湖畔

北海道立大沼学園
〒 041－1355
北海道亀田郡七飯町字西大沼８番地
TEL 0138－67－2014
FAX 0138－67－2032
hofuku.onumagakuen1@pref.hokkaido.lg.jp
http：//www.pref.hokkaido.lg.jp/hf/ong/

大沼学園長　米田　浩二

第1号に続き、忘れがたい子どものことを書きます。

ある小さなマチに小学生の男の子がいました。彼は学校で暴れて、校内の物を壊したり、担任の先生や子ども達に暴力を振るう状態が続きました。

その事態を憂慮して、関係者会議が開かれ、彼以外の子ども達を守るため、彼を学校に登校させず、マチの公共施設で担任等が学習支援するという対応がとられました。やがて、彼は公共施設でも物を壊したり、担任や彼を心配し親身に関わってくれていた校長先生にまでひどい暴力を振るうようになり、その対応は破綻を来しました。そこで、学校をはじめとする関係機関がこぞって児童相談所による対応を強く求めるようになりました。

児童相談所での対応が始まりました。私は彼を一時保護所に通わせることを所に提案し、認められましたが、所内の物を壊す、他児を威嚇するなどの行為が目立ち、わずかの期間で保護所での対応を拒否されました。

私は単独で彼の居場所を作ることを決心。朝早く自宅まで彼を迎えに行き、昼食をとって家に戻すという対応を週 3 回続けたいと両親に提案。了解が得られたため公用車で近隣の児童養護施設の体育館で遊んだり、市外の公園等でスポーツをしたり、ドライブをするなどの形で週3回の対応を続けました。他にも多くの相談を抱えており、かなりハードな日々でしたが、彼の居場所を作るという決心が関わりを続ける原動力になりました。

そんな対応もむなしく、彼は市街地でさらに大きな事件を起こしました。警察は彼が小学生ということで本格的な対応を取らなかったため、関係者会議では児童相談所が親を説得して彼を施設に入れるべきとの強硬意見が大勢を占めました。彼の施設入所が必要だとの考えは以前から児童相談所にもあり、前々任者、前任者も両親を説得しようとしましたが、簡単に拒否されており、やむなく在宅生活を見守っていた経過があり、今回の説得も困難な状況が想定されていました。

当時の上司からは、「両親を説得できるまで戻ってくるな」と発破をかけられ、家庭訪問に臨みました。緊張しながら、両親に対して彼の施設入所の必要性を説明し、入所の同意を促しました。両親ともあっけなく同意するとともに今までの私の対応に感謝の気持ちを示してくれました。周りに味方はおらず、敵だらけだったとの話もありました。

その後、施設入所の日時が決まったことを関係者に説明した際、私からは次の言葉を伝えました。

「施設入所で全てが終わるわけではない。彼はいずれ地域に戻ってくる。いつ戻っても良いように、地域で彼の受け皿を作ることを真剣に検討して欲しい」と。

今、当園にいる子ども達を見ていると地域に戻ることの難しさ、地域との調整の大変さを実感します。個々の事情にもよりますが、関係者の多くが排除の論理だけでなく、その子の長期的な未来を見据えた環境（受け皿、居場所）づくりを志向して欲しいと思う今日この頃です。

新任職員の紹介（新しく大沼学園に着任された職員）②

「新任職員の紹介」

今年度は、7 人の職員を迎え入れました。湖畔第一号から第三号で、数名ずつ自己紹介をしていただく形になります。

職・氏名	前　所　属
園長 　米田　浩二（よねた　こうじ）	室蘭児童相談所
主査（心理療法） 　鈴木　大介（すずき　だいすけ）	旭川児童相談所
主査 　多田　将士（ただ　しょうじ）	室蘭児童相談所
専門主任 　山口　大輔（やまぐち　だいすけ）	釧路児童相談所
福祉専門員 　渡部　準矢（わたなべ　じゅんや）	新採用
福祉指導員 　佐藤　秀介（さとう　しゅうすけ）	新採用
主事 　三澤　快斗（みさわ　かいと）	後志総合振興局保健環境部余市社会福祉事務出張所

「6 年ぶりの大沼学園」　　専門主任　山口　大輔

私は 6 年前までの 6 年間、児童自立支援施設大沼学園の本館職員として、子どもたちとともに過ごす時間を持ちました。その後、児童相談所に異動し、児童福祉司として保護者対応や虐待対応に携わり、縁あってこの 4 月、学園に戻ってまいりました。

この間、学園は夫婦小舎の 4 寮体制から、夫婦制 1 寮と交替制 2 寮の混合 3 寮体制に変わり、いわゆる「本館職員」の役割も大きく変化していました。以前は寮長夫婦が不在時の寮支援でしたが、現在は自分たちがまさに寮を運営する立場となり、戸惑いがありました。以前の勤務時も、ちょうど施設内分校の開設時期にあたり、長らく生活と教育を施設職員が担当する「生教一致」を続けてきた施設の変化を経験していましたが、今回のインパクトはそれ以上のものでした。

元々は夫婦小舎制こそが児童自立支援施設の望ましい姿であり、職員確保の困難さなどから、時代の流れとともに、全国的に交替制に移行しつつあることは、望ましくはないがやむを得ないとの考えを持っていました。事実、赴任後しばらくの間は、自分がシフトを埋めるための歯車となってしまった印象がありましたが、現在は少し落ち着き、少し俯瞰できるようになりました。夫婦制のメリットとして、特定の大人が濃密に子どもと向き合い、関わることができる点がありますが、一方で指導が独善的になりやすく、寮が密室になる恐れがあります。交替制においては、職員がシフトに従って次々交替する体制上、指導の継続性・一貫性や子どもとの愛着形成という点ではハンデがありますが、情報共有に留意すれば風通しのよい環境となり得ます。また、何人もの職員が子どもの日記へ返事を書いてくれている様子や指導場面を経験して、複数職員からの目があり、色々な意見や指導をもらうことができる点も、弱みではなく強みなのではないかと感じています。ただ、交替制への移行が急速に進んだため、職員の育成などの時間が足りないこと、ここでは詳しく触れませんが、子ども集団の性質も以前とは大きく変化したことなどもあり、様々な苦労や困難が日々立ち塞がってくる毎日です。

また、学園を離れ、児童相談所に勤務したことで、子どもを措置される側から、措置する側の立場を経験し、自身の見え方や考え方にも変化が生じました。以前は児童相談所の措置への過程や子どもへの動機づけなどに対して、不満や文句ばかり持っていたような気がしますが、現在は児童福祉司の苦労や考えも分かるようになりました。そもそも、現在の私は施設職員とはいえ、児相も施設も同じく子ども達の最善の利益を追求していく立場です。とはいえ、少し違った考え方で動く職場を経験できたことは大きな財産であると思っています。

長々と書き連ねましたが、せっかくの縁で戻ってきた学園です。身体はめっきり辛くなりましたが、児相だけでなく、診療所、保健所、ケースワーカーなど、これまでの経験を生かして子どもたちのために尽くしていこうと思いますので、よろしくお願いします。

「着任のご挨拶」　　福祉専門員　渡部　準矢

この春から新採用で大沼学園に着任致しました渡部と申します。

以前は10年間障がい者施設で勤務しておりました。こちらで勤務するにあたり、「対象が18歳以上の障がいをお持ちの方から児童になっている事」や「入園児童各々が複雑な事情や背景、課題を持っている為、児童自立支援施設の職員として求められる事が多岐にわたる事」などから戸惑う場面が多くあります。それ故に、実際の業務場面では大変苦慮しておりますが、前職までの経験を活かし、先輩職員の意見も参考にしながら、多角的な視点で支援のアプローチが出来たらと考えております。

また、福祉には幸せという意味があります。福祉に携わる従事者は、全ての人に最低限の幸せと社会的な援助を提供する必要があります。このように文字で表したり、口で言うのは簡単ですが、人それぞれ幸せの形は異なります。それは生活習慣や過去の経験、性格や価値観などが十人十色であるからこそです。これは福祉の仕事全般に言える事で、難しい部分でもありますが、一人一人が幸せな未来をつかむ為に、自分にはどういう形で何をしていく事が出来るか考え、少しでも子供に還元していきたい所存です。

まだまだ不慣れではございますが、どうぞよろしくお願い致します。

行事報告

＊子ども達の文章は原文のまま掲載しています

夏期キャンプ

福祉指導員　伊藤　凌

今年度のキャンプは、新型コロナウイルスの影響を受け、学園敷地内での開催となりました。例年にない方式となったため、準備段階から多くの先生方にご協力いただき、無事終えることが出来ました。日常の生活空間ではありますが、キャンプレクリエーションなどを通じて、普段出来ないような体験を子どもたちに提供することができ、良かったと思います。

次年度は情勢を鑑みての判断になりますが、数少ない園外行事の一つになりますので、例年通りキャンプ場を利用した行事運営を行えればと考えています。これからも子ども一人一人の思い出になる行事になればと思います。

7月にキャンプがありました。キャンプでは、色々な場所に行ったり、色々なことをしました。あと、焼き肉を食べたりしました。色々な先生と話を出来たり、温泉とか、公園も行きました。テントで寝たのも久々だったので、楽しかったです。あと、ジュース早飲みも楽しかったです。

中３　ショウマ

マラソン大会

福祉専門員　渡部　準矢

10 月 7 日に分校・学園共催でマラソン大会を実施しました。

私自身着任して初めての行事企画であった事や開始直前に俄か雨が降り出す場面もあり、不安でしたが、開始する頃には雨も止み、無事に開催する事が出来ました。

結果は 5.5 ㎞の部が中三の Y 君が優勝、3 ㎞の部が小六の S 君が二連覇、2 ㎞の部が参加者一名で小四の R 君が無事完走しています。

今年はリタイアする児童もおらず、参加者全員完走する事が出来ていたので、それぞれが「無事に完走出来た！」「やりきった！」という達成感に包まれたのではないかと思います。

マラソンを長い距離走るのは決して楽な事ではありません。また、他の行事同様、影で多くの方の尽力があったからこそ、実施も出来ています。なので、どんなに辛い状況でも粘り強く頑張る心の大切さであったり、常に感謝の気持ちを持つという事も忘れないで欲しいと思います。更にそれぞれの児童の中で感じ取れた事・学び得た事を今後の生活場面等で活かしてもらえれば、企画した立場としては大変嬉しく感じます。

昨年は 29 分でした。昨年は、練習不足であまり良いタイムを出すことが出来ませんでした。走る前の気持ちは、上位でゴールすることが出来るかと、目標タイムでゴールすることでした。でも、目標タイムは出ませんでしたが、5 位でした。昨年と同じ順位でした。練習の時は昨年と同じようにはなりたくなかったです。当日の時は、がんばろうと思いました。走っている最中の気持ちは、いたる所が痛かったけど、最後まで走りきろうと思いました。スタートの前と後は、とても緊張しました。小田急のユートピアから、あまり緊張がなくなりました。前半は、いつもと同じスピードで走りました。中盤は、いつもよりスピードを上げて走りました。後半は、中盤と同じスピードで走りました。ラストスパートは、中盤と前半よりも速いスピードで走りきることが出来ました。走り終えての気持ちは、最後まで諦めないで取り組めてよかったです。全体を通しては、練習をもっと真面目にやっていたら、よいタイムや順位をとれていたと思います。今後に向けては、一位を目指して頑張るのと、今年よりも良いタイムを出すので、練習をもっと真面目に取り組むことです。

中 2　ツバサ

中学三年生修学旅行

児童自立支援専門員　　高橋　和輝

今年はコロナ禍で修学旅行自体の実施が危ぶまれましたが、分校さんの徹底した感染症対策のおかげもあり、無事に東北地方へ行くことが叶いました。初めての修学旅行の中 3 生も多く、出発前は少し緊張した表情も見えました。

北海道新幹線「はやぶさ」に乗車し快適な移動を堪能すること約 2 時間で盛岡駅に到着し、時折雨の降る天気のなか啄木新婚の家を訪れました。石川啄木の破天荒な生活ぶりとは裏腹に、静かで穏やかな時間の流れる四畳半の書斎は当時のままで、趣がありました。資料館や銀行では宮沢賢治、石川啄木に関する資料が多数展示しており、子供たちも一生懸命メモをとっていました。

2 日目は月見坂を歩き中尊寺へ。新覆堂に納められている金色堂を見学し、教科書でしか見たことのない東北の歴史と世界遺産を子供たちは身近に触れることができました。厳美渓では「空飛ぶ団子」に驚かされ、猊鼻渓の川下りでは船頭さんの饒舌なガイドを聞きながら荘厳な岩々に目を奪われました。

自然豊かな大沼とはまた違う東北の風景や文化に今回の修学旅行でふれることができました。子供たちにとっても本当に貴重な経験になり、将来や進路に向けてがんばろうと思ってくれたはずです。最後に、今回の修学旅行を綿密に計画してくださった分校の先生方、臨機応変に対応してくださった引率の先生に感謝申し上げます。

盛岡市内研修では、石川啄木の家に行きました。その中は、古民家のようで生活展がありました。盛岡てがみ展では難しい話を聞きました。中尊寺では、色々な展示物とともに説明をしてくれる人がおり、とてもわかりやすかったと思います。

中 3　リュウスケ

寮遠足

自立生活支援　主査　斉藤　利昭

今年の寮遠足は、9 月 19 日に実施しました。世間的にはシルバーウイークの初日です。昨年は雨天の中での歩行でしたが、今年は素晴らしい秋晴れの中、雄大な駒ヶ岳とその駒ヶ岳を映し出す鏡のような小沼・大沼湖畔の素晴らしいロケーションをバックに、今年も小沼・大沼湖畔 1 周の遠足が実施されました。いつも、行きこそは意気揚々と歩く足も軽く、楽しいお喋りをしながらの歩行でしたが、初めて参加する子どもからは「後、どれくらいで着きますか？」と途中から聞いてくることが多くなりました。昼食場所の東大沼キャンプ場には、想定時間よりも早く到着することができましたが、新型コロナウイルスの影響からか、連休初日のキャンプ場は車も駐車できないほどの賑わいで、テントも犇めき合う状態で、何とか空いているスペースを見つけ、昼食のお弁当を食べました。以前の寮炊事遠足は、まさしく炊事用品をリヤカーに積んで運び、昼食は炊事をしておりましたが、こんなに人の多い東大沼キャンプ場は初めて見る光景であり、炊事する場所も確保出来なかったかもしれません。途中から足が痛いと言う子もいましたが、それでも昼食時は湖畔近くで元気に遊ぶ子どもがいました。問題は帰りです。明らかに歩くペースが遅くなる子、足が痛いと言う子、途中で残念ながらリタイヤする子が散見されました。8 時 30 分に学園を出発して、15 時 30 分には無事に学園到着しました。昨年よりも早いペースでのゴールです。日頃、しんどい思いをすることがない子どもたちにとっては、とても良い機会になったと思います。来年こそ、学園全職員で参加してほしいと思います。

朝起きたとき、足が痛かった。9 時に出発で、9 時までには治ると思ったけど、治らなかった。足を引きずりながら、10 分くらい遅れて出発した。最初は足を引きずって歩いていたけど、少しずつ足の調子が良くなってきているように感じ、足をついて歩いてみた。でも、まだ痛かった。それでも歩いている内に、だんだん普通に歩けるようになって、最終的に普通に歩けた。このときには、すごく皆と距離が離れていたから、追いつこうとペースを上げて、休憩せずにずっと歩き続けた。それでも、全然見えなくて、相当遠く離れた差があると思った。でも先生に、「このペースでいけば追いつける」と言われて、歩き続けた。

結局、最後まで追いつくことは出来なかったと思ったが、皆より早く着いていた。追いつけなかったと思った理由は、皆と全く別の道で行っていたから。これが分かったとき、とても驚いた。着いた後、皆とご飯を食べ、大沼で遊んだ。凄く楽しくて、足の痛さを我慢してきて良かったと思った。

帰りは皆と一緒に、行きと同じ、皆から見れば行きと別の道で帰ってきた。行きは疲れたけど、帰りは話していたから全然疲れなかった。皆と約 25km 歩いたのは初めてだったから、とても良い思い出になった。でも、帰ってきた時には、こんな疲れは経験したことがないというくらいの疲れがあった。

中２　シュウヤ

前期クラブ　活動報告

野球クラブ

福祉指導員　成田　健悟

「なんで、打ったら走らなければいけないのですか？」大沼学園に入所し生まれて初めて野球をプレーした子どもが私にこう質問してきました。私は小学校より野球を始め、中学、高校と野球部に所属し、学生時代は毎日のように野球に取り組んできました。そんな私からすると、打ったら、一塁に走る事なんて当たり前のことなのですが、彼にとっては当たり前のことすら知らなかったのです。

大沼学園に入所した中学生は全員必ず野球部に所属します。入所前から野球をプレーしたことのある子はほぼいません。大多数の子どもは学園に来て初めてグラブをはめ、バットを構えるのです。当然いきなり野球を上手くプレーすることなんて出来ません。練習ではエラーや空振りを重ね、近隣の中学校との練習試合では惨敗することも珍しくありません。しかし毎日毎日練習を重ねていくと今までボールを怖がっていた子どもが体を張って打球を処理するようになり、どこか不安げな様子でプレーしていた子どもが堂々と大きな声をだしてプレーするよう成長していきます。すると子ども達にとって野球は「強制的にやらされている辛いもの」から、「やりがいのある楽しいもの」へと変化し、更に上手くなろうという向上心が生まれ、どんどん上手くなっていきます。そんな子ども達の成長を見ると、子どもが持つ可能性というものはとても大きく、素晴らしいものであると実感させられます。

令和 2 年度野球部は東北・北海道地区少年野球大会が新型コロナウイルスのため、大沼地区少年野球大会が悪天候のため中止となり、公式戦の出場がありませんでした。決して納得出来るような結果ではないと思いますが、日々の練習で学んだことは無駄ではなく、将来役に立つものであると思います。

「なんで、打ったら走らなければいけないのですか？」そう私に質問してきた彼は今、毎日のように寮の前でキャッチボールをしています。

今年は大会が 2 つともなくなってしまいました。でも、大会が全てではないと思います。それまでの過程が大事だと思います。日頃の練習で言われている準備や後片付け、攻守交代時のダッシュなど、色々なことを学び、楽しむことが出来ました。野球クラブを通して学んだことを今後の生活に生かしていきたいと思いました。

中３　ユウマ

小学生クラブ

児童自立支援専門員　奥田　寛崇

ここ大沼学園には広大な自然が広がっており、小さな町で生まれ育った人には懐かしさを、都会で生まれ育った人には新鮮さをそれぞれ感じさせてくれます。園内には、かつて職員と児童が作成した池や、大沼の湖畔に注ぐ小さな川があり、たくさんの緑であふれています。大人はその大自然に驚き、時に感動を覚えますが、小さな子どもたちの目には、この環境はいろんな資源に富んだ“遊び場”と映るようです。

私たち小学生クラブも例に漏れず、その自然豊かな“遊び場”を生かした外遊び（散策・缶蹴り・魚釣り・写真撮影など）を中心に、かき氷作りやスイカ割り、ハッカ風呂入浴など、様々な楽しい活動を行ってきました。もちろん、楽しんでいるのは子どもたちだけではありません。一緒に遊ぶ子どもたちの笑顔や笑い声は、私たち職員にとっても、彼らとの遊びが仕事以上の何かであることを感じさせてくれます。

しかしながら、クラブは楽しいことばかりではありません。当然のことですが、子どもたちは遊びの中でたくさんの失敗をします。その躓きを見逃さず、声をかけ、学びを促すことが私たち大人の役目です。子どもたちは何度も同じ失敗をします。そのたびにこちらも、何度も同じ言葉をかけるのです。

同じ失敗を繰り返す子どもたちには、職員も「自分の声が届いていないのではないか」と不安になることがあります。そんなときに思い出すのが、ベテラン職員の「今はまだ、分からないかもしれない。だから私たちは“将来のこの子たち”に話している」という言葉です。ここで私たちがかけた言葉が、子どもたちに『将来』大きな気づきを与えてくれることを願う言葉です。この「今はまだ…」というフレーズは、現状を嘆くネガティブなものではなく、未来を志向するポジティブなものです。このさき子どもたちが大人になったときに、楽しくも示唆にあふれる思い出として、学園生活を振り返られるような活動を、今後も続けていく所存です。

クラブでは、しゃぼん玉とハッカ作りと鬼ごっこや缶蹴り、かくれんぼ、DVD、工作、野球、サッカーとかしてとても楽しかったです。特に楽しかったのは調理やミシンをしたりして、とても良いクラブになりました。冬のクラブではスキーが楽しみです。

小６　シオン

実科生の活動報告

活動のまとめとして実科新聞を作成しました！

その一部を抜粋します。

「実科生とは？」

実科生とは、中 3 を卒業した学園で最高学年の生徒ですが、高校生ではないので、就職前後に作業活動をしています。しかし、今年の二人は高校進学を目指して勉強しながら作業活動をしています。

「成功と失敗」

僕の失敗は、花壇整備で雑な作業をしたり、芝刈り機の洗いが遅かったり、刈り払い機の燃料を入れ忘れたりしたことです。その内のどれも、「気が抜けている」ときでした。成功したときは、大沼地区少年野球大会に向けての芝刈りです。理由は、午後までかかると思っていたグラウンドの芝刈りを、午前中で終えることが出来たからです。

「学んだこととまとめ」

僕の学んだことは、「気を抜けば失敗する」「目標を決めないで動けば失敗する」「挑戦すれば出来る」の 3 つです。

僕は、気を引き締めて目標を決めて挑戦すると、失敗しにくいことがわかりました。

実科生　コウキ

「思い出のある作業」

大沼地区少年野球大会が学園のグラウンドで開催されるので、グラウンドに生えている芝を芝刈り機で刈っていたのですが、その日は気温が高く３２℃あり、自分ともう一人の実科生で頑張って午前中に綺麗に終わらせることができ、周りの先生方からも労いの言葉をもらいました。でも、大沼地区少年野球大会は、雨天で中止になってしまい、とても悲しかったことが頭の中に強く残っています。

「作業で難しいところ」

作業では、自分で掃除したところは、綺麗だと思うのですが、周りから見て汚いと言われてしまうことがあり、周りの人がこれを見てどう感じるのかを考えないといけないので、実科作業はとても難しいです。

「実科で学んだこと」

自分は、実科で生活していてたくさん学んだことがあります。１つめが、仕事をするなら、お金をもらうに値する仕事をすること、このことを教えられて、頑張ろうという気持ちになりました。２つ目は、諦めなければどんどん強くなることです。自分が来た頃の体つきは、ガリガリで力が全くなかったので、力のいる作業はとても苦手でした。でも、１つ目のことを言われ、自分も「ちゃんとしなくては」と思い、すぐに作業を放り投げないで作業に取り組んでいたら、体力や力が付きました。でも、集中力が必要な作業は、来たときと変わらず苦手です。

実科生　ヒナタ

ご寄付食品等

皆様のご厚情に心より感謝申し上げます。

（令和２年７月～１０月）

岸本　凪沙　様	東海林　学　様	澄　マサノ　様
国際ソロプチミスト　様	心の里親会　庭山　啓子　様	財津自工　様
宮村内科　宮村院長　様	七飯更生保護女性会　様	杉本　秀則　様
佐藤　隆三　様	青山　康二　様	三浦　辰也　様
八島　勲　様	児童養護施設　函館厚生院くるみ学園　様	

編集後記

新型コロナウイルスの関係で全国的に閉鎖的な雰囲気が漂っていますが、大沼学園では紅葉が綺麗に色付いています。子ども達は、肌寒くなってきても尚、キャッチボールやサッカーなど、この自然に囲まれた開放的な環境で伸び伸びと遊んでいます。そんな力強いエネルギーを間近で感じることで、我々職員も力を貰いながら日々の業務に取り組むことが出来ています。キャンプやマラソン大会、修学旅行といった行事についても、様々な議論を重ねながら、子ども達が少しでも楽しく、充実した時間を過ごせることが第一であると考え、工夫を凝らして実施することが出来ました。

昨年から大沼学園の体制も変化し、困難の多さも感じる一方で、子ども達の成長ぶりを感じる瞬間は何にも代えがたい喜びがあります。そんな大沼学園の子どもたちの様子を、この広報誌湖畔を通じて少しでも身近に感じて貰えれば幸いです。

大沼学園を支えてくれている関係機関の皆様、地域の皆様、保護者の皆様には日頃からお世話になっております。ありがとうございます。今後も応援よろしくお願いします。

児童自立支援専門員　松山　一也

学　園　の　動　向

令和２年７月～１０月

７月

４日　野球部練習試合渡島総合振興局職員野球チーム対戦のため来園１８対３で敗戦

６日　実科職員児童大沼岳陽学校、七飯町役場、函館児相訪問し過日実施した花壇整備の事後整備

７日　薬物乱用防止教室（分校）

９日　期末テスト（中、～10 日）　職員会議　札幌市児相大森将司児童福祉司、田中想太児童福祉司移送のため来園向陽学院佐藤孝幸自立支援課長、小林さとみ専門主任、相原未央専門主任視察のため来園　室蘭児相宮田顕一郎子ども支援課長、赤木諄児童福祉司面接調査のため来園

１３日　歯科検診（分校）

１４日　札幌市児相大森将司児童福祉司、田中想太児童福祉司、川野名智也児童福祉司移送のため来園

１５日　医学診断

１６日　心電図検査（分校、中１）

１７日　尿検査（３次）

１８日　野球部練習試合大野中学校野球部対戦のため来園０対５、４対０でいずれも敗戦

１９日　理髪

２０日　不審者被害防止教室（分校）

２１日　避難訓練

２３日　野球部練習試合せたな町役場職員野球部対戦のため来園 20 対０で敗戦

２４日　函館心の里親会芦野啓子会長ほか３名キャンプへの物品（スイカ）寄贈のため来園
キャンプ（～26 日）※今回は新型コロナウイルス対策として園内実施

２７日　道保健福祉部京谷栄一少子高齢化対策監視察のため随行職員保健福祉部高齢者保健福祉課三谷由利香主任、子ども子育て支援課関口聖人主事、渡島総合振興局社会福祉課大橋恵美子主幹と来園

２８日　耳鼻科検診（分校）

３１日　１学期終業式

（７月：入所１名／退所０名）

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

８月

２日　一時帰省発表　一時帰省証明書交付

３日　一時帰省期間開始
残留寮：蛍雪寮・晩翠寮
残留行事：バーベキュー、映画鑑賞

４日　朝から曇天時々雨天 16 時時点で職員室内 26℃湿度 81％不快至極　この先の残留期間中天気予報不良

５日　残留行事：釣り（森町蛯谷漁港）

７日　残留行事：温泉入浴、外食（大沼公園での遊覧船は強風のため運行中止）

９日　残留行事:函館山登山　霧中決行山頂展望台で視界晴れ眼下函館市内を展望

１１日　予定残留行事（グリーンピア大沼）中止

１３日　一時帰省期間終了　残留行事は天候不良の合間を縫って概ね実施　残留寮における児童の問題行動発覚

１５日　医学診断
保育実習（～29 日）名寄市立大学保健福祉学部社会保育学科３年髙橋歩夢、藤田郁美両実習生

１７日　２学期始業式　内科検診

１９日　運営会議　係長・主査会議

２０日　職員会議

２６日　支援会議

３０日　理髪

（８月：入所０名／退所０名）

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

９月

１日　火災対応訓練　札幌市児相瀬川琴乃児童福祉司、西海谷誠児童心理司移送のため来園　函館児相椎野秀基児童福祉司、三浦聖判定員移送及び打合せのため来園

２日　佐藤秀介福祉指導員新採用Ⅰ（後期）研修受講（札幌市、～４日）

４日　旭川児相高松由香児童福祉司、塙志穂児童福祉司移送及び打合せのため来園
大沼地区少年野球大会野球部壮行会

８日　学力テスト（中３総合Ａ）

１０日　野球大会会場準備及びリハーサル

１１日　第７２回大沼地区少年野球大会雨天

１２日　のため中止
振替休校　渡部準矢福祉専門員新採

１４日　用Ⅰ（後期）研修受講（札幌市、～15 日）

１５日　振替休校

１６日　職員会議　給食会議　医学診断　函館児相小林太郎児童福祉司、三浦聖判定員面談及び打合せのため来園　室蘭児相佐々木史織児童福祉司、山川啓太福祉専門員面談及び打合せのため来園

１８日　札幌市児相塩見菜葉児童福祉司、山田祐太児童心理司移送及び打合せのため来園
１９日　寮遠足大沼小沼湖畔ほぼ１周（24.5km）を児童職員完歩
２３日　中３生修学旅行（岩手県、～25 日）
２７日　野球部練習試合（対大野中学校、１試合目５対２で負け、２試合目９対０で負け）
２９日　小学生カヌー体験（小沼）
（９月：入所１名／退所０名）
＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊
１０月
１日　小６生修学旅行（青森市ほか、～２日）
２日　火災訓練　衣替え
４日　文化系（和太鼓）クラブ活動開始
ぶどう狩り（芝蘭寮、晩翠寮、函館心の里親会による招待）
７日　マラソン大会　函館児相椎野秀基児童福祉司、三浦聖判定員面談及び打合せのため来園
８日　旭川児童相談所西森里絵児童福祉司、年藤香苗福祉専門員移送及び打合せのため来園
１０日　ぶどう狩り（蛍雪寮、函館心の里親会による招待）
１１日　理髪
１２日　授業参観日　道政パネル展（於渡島合同庁舎１階ロビー、当園の版画カレンダーなど展示、～16 日）
１５日　学力テスト（中３総合 B）
１６日　中２生校外学習　帯広児相東村智之児童福祉司移送及び打合せのため来園
１７日　作曲家佐藤三昭氏と七飯男爵太鼓メンバー和太鼓指導のため来園
２９日　函館家庭裁判所板橋剛家庭裁判所調査官、藤田薫家庭裁判所調査官視察のため来園
（１０月：入所１名／退所１名）